

## 第389回 鳥取海区漁業調整委員会議事録

- 1 日時 令和4年11月24日（木）午後2時から午後3時まで
- 2 場所 倉吉未来中心 セミナールーム4  
（鳥取県倉吉市駄経寺町212-5）
- 3 出席者 委員：板倉委員、朝日田委員、灘本委員、寺田委員、永田委員、近廻委員  
佐々木委員、井本委員  
鳥取県：（水産振興局）國米局長、本田漁業調整課係長、野々村漁業調整課係長  
（境港水産事務所）上原水産技師  
事務局：氏事務局長、松田次長、西田書記、足立主事
- 4 議事
  - （1）新規の許可等に係る知事許可漁業の制限措置等及び許可の有効期間の短縮について（諮問）
  - （2）鳥取県資源管理方針の変更（あわび類、さざえ、ばい、いわがき追加）について（諮問）
  - （3）漁業権一斉切替えに係る免許方針について（協議）
  - （4）その他

### 5 議事の経過及び結果

事務局が開会を宣言し、板倉会長の挨拶の後、議事に入った。議事録署名委員は会長より寺田委員と灘本委員に指名された。

#### 議事1 新規の許可等に係る知事許可漁業の制限措置等及び許可の有効期間の短縮について （諮問）

**〔原案に同意する旨決議された。〕**

足立主事が資料1に基づき説明した。

〔板倉会長〕大体例年どおりみたいな話ですか。

〔足立主事〕地びき網漁業と小型定置網漁業については、ちょうど許可の有効期間の満了に伴う公示ということになっておりまして、小型いかつり漁業については、漁協から新たな着業について要望がございましたので、それに対応する形で、今回公示をさせていただくということになります。

〔板倉会長〕 小型いかつり漁業は、有効期間が令和5年4月30日までのものがありますが、このたびの許可は、ひとまずこの期間までということですか。

〔足立主事〕 今の小型いかつり漁業の期間が、8ページのところでお示ししている10トン未満・10トン以上で、それぞれ設定されていて、ひとまずはこの現行の期間の間で許可をするということになります。

〔板倉会長〕 またさらに申請が必要ですか。

〔足立主事〕 そうです。この有効期間が過ぎれば、また継続の許可申請をする必要があります。

〔本田係長〕 鳥取県の小型いかつり漁業については、継続の許可の対象となっておりますので、次の令和5年4月30日の満了で継続する際には、委員会には諮らず、許可期間満了の3か月前から申請を受け付けるというような格好になります。

〔板倉会長〕 事務局の案で了解ということでしょうか。

## **議事2 鳥取県資源管理方針の変更（あわび類、さざえ、ばい、いわがき追加）について（諮問）**

### **〔原案に同意する旨決議された。〕**

野々村漁業調整課係長が資料2に基づき説明した。

〔板倉会長〕 要するに、今の状態を維持するか、もし減るようだったら、何とか考えてということになると思いますが。

〔野々村係長〕 まずは、現在の状況が中位であるものについては、低位にはならないようにし、中位、または高位を目指していくということになります。

〔板倉会長〕 現場としても、運航制限とか、放流とか、いろいろやっていますが、そういうことをしても減ってくるようであれば、ほかに何か考えないといけないということですか。

〔野々村係長〕 そうですね。この資源管理方針というものが、1回定めたら、これで未来永劫ずっとというわけではなく、資源管理方針の中で、5年に1回、見直していくこともございます。ですので、そういうタイミングで変えるということはできます。

〔朝日田委員〕 水揚げ量が減っているという話なのですが、獲りに行く漁師が少なくなってきているというところで、水揚げが減ってきているという部分もあると思います。資源量は関係なく、特に潜水はもう辞めていかれる方もいるということで、水揚げとしてなかなか上がってこないというようになってくると思うのですが、その辺りはどのように考えておられますか。

〔野々村係長〕 今のこの漁獲量に基づく資源の水準というのは、あくまでもその漁獲努力量が一定という仮定の下での資源水準になりますので、明らかに変わることがあれば、考えていきたいと思っております。

〔板倉会長〕 水揚げ量が減るということはいろいろ原因がありますけども、人が減るとか、そういうことも考慮しながらということですね。管理を踏まえて、その資源量を増やすという。

〔松田係長〕今年もさせていただいたのですが、浜回りをして、漁業者さんの意見を聴いて回るということを行っています。先ほど、野々村が説明しましたが、5年に1回は中身の検討をするというところで、先ほど朝日田委員のおっしゃられたような漁獲量の減った理由が、そういうところにあるというような話であれば、そのような知見を踏まえて、また新しく考えていくということは必要だと思っています。漁獲量が減ったのは漁業者が獲り過ぎたから、ということ判断する材料というのはあまりはっきりしてないですが、話をお聴きしながら、うまくやっっていこうと思っています。

〔板倉会長〕鳥取県資源管理方針の変更ということについては、事務局の案に同意するというところでお願いします。

### **議事3 漁業権一斉切替えに係る免許方針について（協議）**

本田漁業調整課係長が資料3に基づき説明した。

〔國米水産振興局長〕2ページの2)のイの2行目なのですが、新規のところ、漁業生産において重要な水産動植物でありというのは分かるのですが、漁業調整に支障を及ぼさないというのが、イメージが少し湧きにくいので、どういう事象を想定しているのですか。

〔本田係長〕漁業調整とは違うのですが、公益に支障を及ぼさないということになると、例えば、港内や航路など、そういうところにある漁業についての状況です。漁業調整については、本来沿岸のところなので、例えば、既に知事許可漁業で許可している漁業等に障害があるなどといったところになると思うのですが、漁場に関しては、第一種共同漁業権が一番ベースになるところなので、本来、漁業調整上というのは、あまり大きくないかもしれないです。

〔國米水産振興局長〕分かりました。まだ素案ですが、言葉の意味や定義が分かりにくいままだといけないので、説明がつきにくいところについては、また考えてもらえたらと思います。

〔氏事務局長〕今の新規の漁業権対象種ということで、カメノテというのを検討しているのですが、東と浜村、1号と2号の海区になるのですが、実際カメノテについて、どのようにお考えになるのか、委員の皆さんで、何か御意見等あるようでしたら、お聞かせ願えたらと思うのですがいかがでしょうか。朝日田さんは潜っておられますが、どうでしょうか。

〔朝日田委員〕潜って獲るというよりも、岩場についているものを獲っています。単価が上昇というふうに書いてあるので、収入になればいいと思うのですが、おそらく潜って獲るという感じではないので、一般の潜水器以外の人でも獲ってしまうのではないかと懸念はあるのですが、今のところ、看板に、カメノテは獲ったらいけないというのが多分書いてあると思います。

〔氏事務局長〕そうなのですか。

〔朝日田委員〕はい。ですので、資源的にどれだけあるか気をつけたほうがいいのではと思います。

〔氏事務局長〕漁獲して出荷されるようなことはあるのではないのでしょうか。

〔朝日田委員〕今まで、泊としてはないと思います。

〔板倉会長〕カメノテは、近年少し獲って出荷はしていますが、漁業権どうこうというほどでもないとは思いますが。

〔本田係長〕10年前にも、網代から、カメノテを設定できないかといった話もあったのですが、そのとき、そこまで漁業生産上の重要度が高くないということで、1回見送らせていただいている経過はあるのですが、漁業権を設定すると管理も必要になってきますので、設定までするかどうかということについて、皆さんの現場の御意見をお聴きできればと思っています。

〔板倉会長〕通常は、好きな人が獲って、家に持って帰っていたのですが、島に行けば、大体どこにでもあるものです。資源的には多いです。ただ、大きい小さいがありますし、みんなが食べるというほどでもないですし、外から来られた人は知らないという人もおられるでしょうし、地元で昔に食べた経験がある人ぐらいしか知らないと思います。イガイは少し下になり、カメノテはそれよりも少し上にあるという感じで、ついでに獲って帰ってみようという感じで獲ってきています。今のところは、島全体どこでもあるという感じです。

〔氏事務局長〕漁業者の方ではなくて、一般の地元の方でも、結構持って帰られる方がいらっしゃるのですか。

〔板倉会長〕今は、島に行って獲るということはほとんどないのではないのでしょうか。私達が子どもの頃は、よく島に行っていました。親から獲ってきなさいとか言われたことはないです。昔から、カメノテがよく食べられているというほどでもなく、ただ、好きな人が、イガイを獲るついでに、ちょっと持って帰ろうというくらいです。最近では、イガイの小さいものがあれば、1キロや2キロという程度で出しています。カメノテの相場はイガイと同じか少し安いのか、といった具合で、1キロ800円、高いときは1,000円ぐらいするかもしれませんが、大体800円前後です。イガイも、1キロ1,000円くらいです。ですが、獲りに行かれる人は少ないみたいです。

〔國米水産振興局長〕カメノテは、子どもの頃、海水浴に行くときに獲って帰って、湯がいて食べていたものですから、一般の方でそういう人が多いのかなと思っていました。

〔板倉会長〕船で行かないといけませんし、今の若い人は、そんなところまで泳ぎには行かないです。

〔本田係長〕今日の委員会までに、現状について、田後などに聞いたのですが、田後では、わりと地域として、夏になると食べるような感じはあるみたいです。

〔板倉会長〕料理屋さんとかから少し要望があるかもしれないです。身は少ししかないので、イガイに似たようなだしが出るので、汁のだしに使うような感じです。その身自体を食べるというよりは、だしを取って汁を吸うといった感じです。

〔野々村係長〕資源管理方針についてですが、小型底びき網で漁獲される魚種についても資源管理方針を変更していっているところで、今、ヒラメとメイタガレイということで考えているのですが、それらが今小型底びき網で漁獲される主要魚種と言えるものなのか少し疑問に思っているところがあります。かつては、メイタガレイといえば、漁期初めの5月には大量に

獲れて、漁獲量も結構あったのですが、今は、漁獲量がどんどん先細りしているような状況になっています。参考までに、小型底びき網で、漁獲量的に主要になっている魚種について、どのようなイメージを持たれているか教えていただけたらと思います。佐々木委員は今頻繁に出られていると思うのですが、隠岐の方ではデンゴ（アジの子）とかが獲れますか。

〔佐々木委員〕デンゴはほとんど獲れません。

〔野々村係長〕獲れないですか。

〔佐々木委員〕はい。レンコダイが主になっています。

〔野々村係長〕レンコダイですか。

〔佐々木委員〕メイタガレイは、今年は全然獲れません。

〔野々村係長〕ヒラメなんかはどうですか。

〔佐々木委員〕ヒラメもほとんど入りません。

〔本田係長〕これは、指針で決めたら、それを漁業者の人が、資源管理の協定で、その魚種についての資源管理方を結ばないといけないことがあるのですよね。

〔野々村係長〕そうですね。

〔本田係長〕だから、ヒラメとメイタガレイは、体長管理されていたりすると思いますが。

〔野々村係長〕そういう観点からということもあるのですが、できれば両方マッチすればいいのですけど。今、資源が多いですから。

〔灘本委員〕これは、先々には、サワラとかも資源管理に載るのですか。

〔野々村係長〕刺網の関係で、ブリとサワラを考えています。

〔灘本委員〕まき網ではたくさん獲るのですが、私達が獲るのは微々たるものだと思います。

〔松田係長〕ブリは、国のほうで、資源管理に関して、話合いも始まっているという段階です。

恐らく、鳥取県の沿岸漁業者さんが、何トンまでという制限の管理にはならないと思っていますが、サワラは、まき網等でほとんど獲ってないので、鳥取県の沿岸漁業者さんで何トンという話は出てくる可能性があります。そのときは、県全体の漁獲量の枠が国から定められますので、刺網やひき縄については、その枠の中で獲っていくしかないという状況は出てくる可能性があります。また、その議論とは別に、今、皆さんが資源管理計画という、休漁日など、自主的にされているものがありますよね。その考え方としては、資源管理をして、自らその資源を守っていくというものなのですが、そういうことをするための支援として、積立ぶらすの要件になっています。資源管理計画をするから、積立ぶらすで国が支援してくれるという枠組みになっていて、その積立ぶらすの枠組みの支援を継続的に受けるには、令和5年度末までに、今の資源管理計画は終了になるので、今日、野々村が、あわびやさざえについてお示ししましたが、その資源管理方針に従った内容の資源管理協定というものをつくって、漁業者さん達の間でそれを締結していただくことで、引き続き、積立ぶらすの補助を受けられるということになっているので、今、野々村から、小型底びき網についてはどういう魚種がよいかということ相談させていただいたということになります。資源管理協定を今後結んでいくにあたって、どういう魚種がいいとか、魚種の管理方法はこうしたいということ等に関して、委員の皆さんから御意見頂けたらと思っていますところですよ。

〔灘本委員〕積立ぶらすは、ある程度水揚げのある人には結構入るのですよね。だけど、私達の漁協にしても、新規に2人とか3人、後継者をつくるのですが、その人達はどれだけ水揚げがあるか考えられないです。

〔松田係長〕今の段階ですか。

〔灘本委員〕はい。ですから、新しい人がもう獲る魚がないような状態だと、結局、就業したのに、稼ぐ手段がつかないという、首を絞める感じになるのではないのかなと。今、浜のほうでも、規制を変えてくれないかという話も出てきています。

〔松田係長〕もちろん我々として、首を絞めるつもりはさらさらなくて、あるものをいかに有効に使っていくのか、というものの参考になればというところなのです。確かに気になっているのは、TACと言われるシステムで、漁獲量は何トンまでというふうに管理されてしまいますと、正直な話、新しい人が入ってきたら、邪魔ですよ。その分自分たちの取り分が減るので。そういうことについては、気にはしているので、沿岸漁業のほうに影響がないように、現場の漁業者さんに、大きな不利益がないようにということについては、設定されるまでに、漁業者さん達や関係者の意見を聴くというようなステークホルダー会議を経ないと、新しい資源管理、TAC管理ができないということになっていますので、そういう会議に、水産試験場等にも参加してもらって、できるだけ不利な管理にならないようにしていこうと思っています。御協力お願いいたします。

## 6 その他

〔野々村係長〕資源管理方針のほうで、アワビからサザエ、イワガキ、パイと追加するというのは、結構大きい変更だと思っているのですが、先ほど朝日田委員が言われた状況の確認なのですが、今、漁獲量で減っているのは、明らかに獲る人がいなくて減っているという状況ですか。

〔朝日田委員〕泊に関して言えば、10年前と比べたらそうですね。

〔野々村係長〕10年前ですか。

〔朝日田委員〕はい。やはり人が少なくなっているし、新たに獲りたい人が加わっても、それまでの人が獲らなくなったりという感じですね。

〔野々村係長〕どれぐらいのイメージですか。

〔朝日田委員〕半分までは行かないですが、もう3分の1ぐらいは減ったのではないかと思います。

〔野々村係長〕では、資源はあるが、人が減ってという状況とまで言えますか。

〔朝日田委員〕例えば、アワビやサザエがどうかと考えると、アワビも、獲れた年と獲れない年があって、そこが定まっていない気もしているので、資源が極端に減ったかと言えば、そういう感覚はないです。ただ、イワガキに関しては、獲ってしまった分は減っているというのは、明らかに感じています。

〔野々村係長〕この資源管理の方向性については、これが完成形とは正直思っていないくて、資源評価制度と加味したり、そういうもので準ずる方向性にしていくべきと思っていまして、先

ほどの協議事項の中でもお話したとおり、概ね5年おきに見直ししていくということも方針の中で書かれていまして、できる限りのことはしていきたいというふうに思います。  
〔板倉会長〕 それでは、今日の会議は終了ということで、事務局のほうにお返しします。

## 7 閉 会

〔氏事務局長〕 それでは、本日の委員会はこれで終了したいと思います。委員の皆さん、どうもありがとうございました。

令和4年11月24日

議長会長

署名委員

署名委員